

## 【東村】第2回 学校再編に係る地域説明会 意見交換 概要

【日時】 2017年（平成29年）3月26日（日） 19:00～22:10

【場所】 東村小学校 体育館

【出席】 参加者 87人（傍聴1人を含む。）

行政 18人（教育委員会：教育次長， 管理部長， 学校教育部長

市長部局：まちづくり推進部長， 松永支所長， 福祉部長 他）

【内容】 1 あいさつ（教育次長， 東村学区まちづくり推進委員会委員長）

2 事前アンケートへの回答（説明：学校再編推進室長， 生涯学習課長， 指導課課長補佐）

3 意見交換

4 閉会

### 地域・保護者から出された主な意見と回答

#### （学校再編に関すること）

○今津小と東村小では違う内容が説明されている。今津小学校の保護者は、学校再編が新たな学校としてスタートするということを認識していない。

→（回答）

2015年（平成27年）8月に「学校規模・学校配置の適正化計画」を公表した際、今津小学校の保護者に学校再編について説明をしているが、統廃合との違いが十分に伝わっていないことが分かった。学校再編の考え方を理解していただくため、2月に改めて説明会を開催した。統廃合の違いなど学校再編の考え方に重点をおいて説明をした。保護者からは、再編後の教育環境や開校準備委員会での協議事項についての意見・質問が多く出され、説明を行った。

○今津小学校での保護者説明会は出席者が少なく理解を得られたとは言えない。今津学区の住民や保護者の理解を得るために教育委員会はどのようにしようと考えているのか。

→（回答）

現在、今津小学校の保護者全員に、説明会の概要（意見・質問と教育委員会の回答）を整理した文書を添付してアンケートを実施しているところである。説明会等に出席されていない方も含め、保護者や地域の方に「学校再編」の考え方を伝え、理解していただけるように努める。

○今津学区の住民への説明会はいつ行うのか。

→（回答）

4月に、今津学区の今津・高西の地域役員に、学校再編に係る説明会を開催する予定である。

東村学区と今津学区の理解が進み、同じ認識になったところで、全体の説明会を開催し、両地域の住民の方と意見交換を行うことを考えている。最終的には、行政としての判断をさせてもらう場としたい。

○今津学区の住民にとっては統廃合。教育委員会の説明が足りないため、再編には納得しないと思う。

説明を聞いてもらうことが重要であり、文書では説明にならない。

○認識してもらったことを確認しながら進めてもらいたい。開校準備委員会を今年立ち上げたいとのことだが、そのことを無視して進めないで欲しい。

→（回答）

説明会に出席されていない方に、概要を整理した文書を配付して意見を出してもらうという方法は、一人でも多くの方に関心を持ってもらい、意見交換に加わっていただくためである。今津学区の皆さんに再編の考え方を認識していただけるよう、これからもしっかりと対応する。

東村学区の皆さんとは、本日の意見交換の内容を踏まえ、論点を再整理する中で、引き続き話し合う。市としては、開校準備委員会を来年度の出来るだけ早いうちに設置できるよう、方向性

を出していきたい。

○行政だけに任せるのではなく、地域同士で話し合っただけで進展させる方法もある。

→ (回答)

東村学区まちづくり推進委員会が、学校再編についての行政との窓口であることを互いに確認しており、今津学区での取組についても報告し、連携しながら進めていく。

○大きい学校を廃校にして小さい学校に通わせるのは、スクールバスの都合で困難だと説明があったが、今津小学校区の地域からも一部スクールバスを出すとしているのはなぜか。場所はどの辺りなのか。

→ (回答)

2015年(平成27年)1月に、国から、通学時間について、徒歩では1時間以内が適当という基準が示された。今津小学校区では、高西南地域と川尻地域の一部に、1時間を超えて通学している現状があり、その課題を改善するために、ジャンボタクシーによる通学支援を行うこととした。

○神村小学校でも同じように長時間かけて登校している子どもがいた。

→ (回答)

神村小学校等において同様の状況も把握しており、今後検討し、整理していきたいと考えている。

○今津小学校の説明会でスクールバス通学の要望が出たときに、実際に歩いてみて欲しいと言われていたが、実際に歩いてみたのか。また、スクールバスはいずれ廃止になると聞くと、利用者が少なくなったら廃止するのか。

→ (回答)

説明会(金曜日)でその話を伺い、翌週月曜日に、学校教育部長と学校保健課長が子どもたちの登校に付き添い今津小学校まで歩いている。また、スクールバスについては、対象者が1人になっても通学支援を行う。子どもの数が少なくなったから支援しないということはない。

○東村小から今津小に関する通学ルートは歩いたことがあるのか。実際に歩いた場所の資料がもらえるか。

→ (回答)

スクールバスのルートを検討するため、職員が歩いて状況を見ている。歩いた場所については、後日資料提供する。

○高西町南地域のジャンボタクシーによる通学支援について、この度要望があり取り組むこととしたと言われたが、今津小の説明会では2006年(平成18年)から要望を出していると聞いた。この10年間どうしていたのか。この様なことでは、開校準備委員会での話も2年や3年ではまとまらない。

→ (回答)

一昨年度に国の基準(通学時間は1時間以内が適当)が出るまでは、通学支援の基準は、通学距離についてのみで、小学校は4キロメートル以内、中学校は6キロメートル以内であった。学校再編の取組とは別に、地域や保護者から意見を聞き、検討した。

開校準備委員会では、開校時期を見据え、計画的に協議を行っていく。

○行政が主導しなければ到底前に進まない。最終的には行政が案を出すのか。

→ (回答)

新しい学校としてのスタートに向け、開校準備委員会では、校名をはじめ議論になると思うが、最終的には行政が決めなくてはいけない。開校準備委員会には、教育委員会管理部長が委員として入り、事務局も学校再編推進室が担う。行政からも提案し、調整も行う。開校準備委員会の協議に期間をとり、開校に向け準備していきたい。

○東村小学校の校舎は他の学校より遅く建てられるなど住民は我慢をしてきた。それも奪われるのは、不平等であり納得がいかない。

→ (回答)

学校の整備の時期については、施設の状況を見ながら計画的に取り組んできたものであり、理解いただきたい。

○学校再編を子どもに説明をするのに、先生を通して行うのは難しいことなのではないか。そうではなく、保護者と子ども、今津小学校と一緒に教育委員会から説明していただきたい。

→ (回答)

学校再編の問題は、教育委員会と地域や保護者がしっかりと意見交換して、方向性を出していくべきだと考えている。子どもの思いなどは、保護者から聞かせていただきたい。

○事前交流について、実際に再編にかかわる1年生、2年生の実施状況はどのようになっているのか。

→ (回答)

これまでに実施した両校の交流は、小中一貫教育の推進を目的とした交流であり、再編を前提とした事前交流ではない。方向性が出てくれば、1・2年生の交流回数を増やすなど、再編後の学校生活を見据えた取組にしていきたい。

○学校再編の判断はどのような形で誰の判断を以ってされるのか。また、東村学区以外の他学区の再編と一斉に行うのか。

→ (回答)

現在再編の対象となっている学校については、2017年度(平成29年度)中に判断ができるよう、しっかりと説明をしていきたい。東村学区については、今後まずは本日の議論の内容を整理し、文書にまとめる。その後の進め方については、役員の方と相談させていただく。学校再編の判断は、最終的には行政が行う。

再編対象校の判断の時期について、全て同じかということ、多少の差異はあるかと思う。

○東村学区にとっても今津学区にとっても教育委員会にとっても、5年後10年後に、良い再編になったと思えるような方向で物事を考えて欲しい。

→ (回答)

我々もそういう気持ちで取り組んでいく。

### **(再編後の学校に関すること)**

○再編後、東村小学校が培ってきたことは十分継承されるのか。

→ (回答)

東村学区には、素晴らしい学習素材があり、子どもたちは、豊かな体験活動を行うことができている。再編後は、広がった地域全体を校区と捉え、東村小学校の特色ある教育活動をより良い形で継承していくことが出来る様に教育内容を作っていくと考えている。

○文化の継承について、東村小の子どもたちは1年生から6年生まで農業体験をしている。再編後に今津小の子どもたちも農業体験に来るとなっても一部だけであり、これでは十分に継承できない。また、いつまでその取組を継続するのか。

→ (回答)

小学校の6年間、小中一貫教育の9年間を見据え、今津学区と東村学区の学習素材を有効に活用した教育内容を考える。東村小学校における地産地消の取組はモデルとなる取組であり、再編後も継続的に行う考えである。体験する学年等は変わるが、その趣旨等は同じものとして取り組んでいくように考えている。また、取組は期限をもってするものではなく、教育上必要であれば、その素材がある限り計画的に行っていきたい。

○再編後の学校で、子どもたちが地域に誇りと愛着を持つためにどういう教育をしようとしているのか説明して欲しい。

→ (回答)

「ふるさと学習」として、両校のこれまでの取組から素晴らしいものをカリキュラムの中に位置づけ、その素晴らしさを実感出来るような学習内容に組み立てていく。また、地域への愛着と誇りは、学校だけでなく、地域で行われていることを地域の大人から学び、引き継いでいくということも必要であり、学校と地域が一緒になって子どもたちを育てていきたいと考えている。

○資料に教職員の研修をして資質向上に努めるとあるが、今まで色々な研修をしても学級崩壊には効果がない、対策が出来ていないということか。再編後、本当に教育委員会に任せて良いのか疑問がある。

→ (回答)

資料にある「一斉研修」は、全ての教職員がより実践的な研修を行おうというものである。対策が出来ていないということではなく、児童理解や学級経営といった指導はこれまでの研修でも継続的に行っている。授業を中心とした教育活動を通して理解し合い、学級集団をしっかりと作っていくことが、学級崩壊の解消、未然防止につながると考えている。学級崩壊については、色々な要因があり、教員は資質向上に向けて努力しなければいけない。教育委員会もその研修の時間が確保出来るよう取組をしている。また、学校規模を適正化することにより教員体制が充実し、教員相互の研修機会が増え、教員の資質や指導力の向上につながり、教育効果が高まるという良い面もしっかり見ていただきたい。

○教員のなり手不足になるという説明と、加配を置くという説明は矛盾していないか。教員の不足のために加配されないのではないかと不安である。

→ (回答)

加配の教員は、再編に伴う制度として、県教育委員会が、新たな教育環境への定着支援のために再編後の学校に6年間置くことになっている。担任と協力して授業を展開し、役割を分担して学習指導にあたりたり、グループ別指導にあたりたりするなど、子どもたちの学習支援を行う。

○問題解決のために教員の加配が必要となった場合、1週間程度の期間を要するとあるが、担任の先生が必要と判断した時点からか。

→ (回答)

問題が起きたとき、まずは学校が対応に取り組む。教育委員会も状況を見に行く。校長が、加配教員が必要と判断した場合は、必要な手続きを行う。直ちに教員の配置が必要という状況であれば、配置されるまで教育委員会の指導主事が教員の代わりに対応することも考えている。

○教育委員会の指導主事が支援にあたっていただくのはありがたいが、加配の教員のようにしっかり張り付けてくれるのか。

→ (回答)

事案に応じ、必要があると判断すれば指導主事が責任をもって支援にあたる。

○再編時はデリケートな時期であり、いじめが起こる可能性がある。資料に書かれている対応は必ずお願いしたい。

→ (回答)

再編に際しては、教職員間、また学校と教育委員会が、情報交換を密に行い、通常よりも危機感を持って指導に当たる。

○特別支援学級に免許を持った職員を置くべきという意見に、免許取得に向け受講者が増加するよう取り組むとあるが、必ず免許を持った職員を配置してもらうわけにはいかないか。

→ (回答)

特別支援学級は、特別支援学校免許状を所有していなければ担任が出来ないとはなっていないため、市としては、免許状所有者を増やすよう努力するとともに、特別支援学級の担任の力量を向上させるための研修は、今後もさらに充実させていく。

○再編前に、子どもを適正規模の学校である今津小に入学させることを選択することは、なぜ出来な

いのか。途中で転校したくないとか、制服代や教育環境を考えて、入学時から今津小を選択できる  
よう、もう少し柔軟に対応出来ないのか。

→ (回答)

学校選択制度は、小学校の場合、入学時に、居住している学区の小学校よりも近距離にある隣  
接の小学校を選択することが出来るという制度で、その取扱いについては現状のまま変えること  
はないという説明をした。再編までは、東村学区に住んでいる方は東村小に通っていただくこと  
が原則となる。

(再編までの間、事前交流を丁寧に行い、スムーズに新しい学校生活が迎えられるように取り組  
む。現行制度においては、再編前に、再編後の学校に通学することは許可事由としていないが、  
子どもの状況から心配事があれば、教育委員会で個別に相談を受けさせていただく。)

### (その他)

○高齢者が安心して暮らせるよう、市全体ではなく、東村に対して行う対策はないのか。

→ (回答)

現在、高齢者が支援や介護が必要な状態になっても、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし  
続けることができるよう、地域での支え合いの仕組みづくりに取り組んでいるところである。こ  
の仕組みづくりは、地域の実情や特性に応じて、まずは地域住民が主体的に取り組んでいただく  
ことが重要であることから、東村地域においても、本市での施策を説明する中で、地域の実情を  
踏まえて実施していく必要があると考えている。

○東村小には卒業制作が飾られており、今まで作ってきた卒業制作を見ていく中で育ってきた気持ち  
が失われるのは残念。今津小にもそういう歴史を飾ったものがあると思うが、それを取り外すのは  
難しいだろう。その点をどのように考えているのか。

→ (回答)

卒業制作については、現時点で取り外し等は考えていない。学校と保護者の意見を聞きながら  
どのように取り扱うか決めていきたい。